

「組み換え作物は安全ではありません！」

こんなトンデモナイ発言をできるのが、北海道民のみならず日本中にワンサカいる。もっと恥ずかしいことは生産者自らが発言していることだ。その彼ら、彼女たちが属する農業組織も同じようなことを言うのだからタチが悪い。

結論を言おう。国家が安全性試験をして既存の作物と同等の安全性を保証した作物に関して、国家以外の反政府主義者がドウだコウだと意見を述べるのは自由だが、安全ではないと発言することは基本的に間違いであり、そのような国家転覆を行なうのであれば、日本国刑法77条の内乱罪違反で死刑を覚悟していたかどうかではないか。

ある遺伝子組み換えの専門家によると、組み換えの安全性とアレルギー性とは同等に考えて良いそうだ。アレルギーの原因のほとんどはタンパク質である。組み換え作物の遺伝子は胃の酸では何秒で分解されるか、熱で分解されるか、慢性毒性はどうかなどが試験される。そのようなのが試験される。その後、世に出た組み換え作物の安全性は農林水産省、厚生労働省、内閣府の食品安全委員会が、既存の作物では決して証明できなかった安全性を

自信を持って、既存のものと同等とみなし得ると明記できるのである。また反対派がよく使う、道徳観についてもこの審査では道徳を目的としない」と明記されている。

このようなことは1994年から行なわれ、日本のみならず、世界中でほぼ同じような基準で安全性試験が実施され、利用されている。

反対派の生産者に聞きたい。まず基本的に我々生産者が栽培して収穫、販売した農産物は科学的に安全かどうか、調べ直す必要があるのではないだろうか。昨今の放射能だけではなく、カビ毒やイモのソラニン、野生のキノコなど危険物がたくさんあり、一部には健康被害があることもご存じだろう。特に食用に向かなかった観賞用のトマトを食用にできたのは、育種と言う人間の本来の欲があればこそ、マーケットに出てこられたのだ。

そして組み換え作物はすべて、例外なく、安全性の試験を行なったものしか存在していないし流通してい

遺伝子組み換え作物は安全性試験をパスしています。

Vol.47



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョーンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

ないのだ。
安全性は国家が担保する

などとマトモなことを書くだけでは私らしくないので、04年に経験したことを書いていくことにする。私が組み換え作物を栽培したいと公言してからというもの、多くの消費者団体、生協、何とか協会の方々のご意見をいただいていた。そのうち、どっかの元少女時

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

代を経験した方は私に向かって冒頭の「組み換え作物は安全ではありません!」と言いつつ放った。元少女は「もし食べて、何かあったら責任をとれるのですか?」と聞いてきたので、私は「いいえ、個人で責任を取る仕組みになっていませんので」と答えた。すると、「それは無責任ですよ!生産者としての自覚はないのですか?」と聞き直したので、私は「組み換えの安全性は所属する国家に担保していただいていますので、個人的に安全性に興味を持つ必要はないと考えています」と答えた。

一方的に攻められることを好むM気質ではないので、軽くS気味にこちらからも質問してみた。「では組み換え作物を食べたらどのようなのですか?。すると元少女は「そこです!宮井さん、やっとなわかっていただけましたか、もし組み換え作物を食べたらアレルギーがある子供が生まれたりどうなりますか?」と返して来たので、「あなたは人種差別主義者ですね?」と聞いたところ、黙り込んでしまった。

実はこの話の前後でこの元少女のお嬢さんが米国に留学していると話された。たまたま新聞記事で、04年当時の米国の首都ワシントンDCの女子高校生の10人に1人が妊娠していると言う記事があり、そのことを

元少女と話していたのだ。

私は、組み換え作物が導入になった96年以前と比較して、「赤ちゃんのぜんそくやアトピーが多くなった」との報告がありますか? 8年が経って、もし組み換えが原因で異常な状態が増えたとの報告がどこかであれば、訴訟の国、米国でどうなると思いますか? 日本ではどうですか? つまりあなたの留学しているお嬢さんは、組み換え作物を食して、異常があるかも知れない遺伝子を持つ国、米国人を差別すると言うことですね?」と改めて聞いてみたら、元少女は「娘が決めることです」と答えた。「では日本の組み換え作物についてもあなたではなく、毎日米国で食している娘さんに日本の未来を決めていただいたら、いかがですか?」と切り返した時の元少女の顔はかわいかった。

場面は少し変わるが、ある米国人から「なんでテレビで組み換えのこ」とばかり話しているんだ、米国では食べていないぞ」と言われた。

典型的なアメリカン・カントリーヒック・コテージジャン(アメリカカト国舎者白人気質の質問であったので、この技術はモンサントが……と説明したが、わかってもらえず、「安全性はどうなのだ?」と本題になったので、「FDA(米国食品医薬品局)

やUSDA(米国農務省)などが安全性を確認している」と伝えると、一言「じゃ、問題なしだ。なぜ騒いでいるんだ?」と言った。私は「わからない、もしかしたら国家に対する忠誠心の違いかな」と答えた。

教室には国旗があり、低学年の子供であっても属する国の国歌を歌う国民は、自由と平等とお金は決して他人さまから与えられるものではなく、自らが築き上げる、との勝ち組教育を受けて、その基盤を支える国家に対する忠誠心に揺らぎない。そのため国民は、いかなることでも政府の考えを支持することができる。

戦前の日本人は野菜と言えば**ホウレンソウのおひたし**くらいしか食べたことがなく、数十年経っても豊かさを共有しようとしなない。貧困思想を受け継ぐ極東アジア人は、肉よりもカロリーなしの**シヤキンヤキ**した野菜が一番、などと言いつつ。米国が戦後導入した食生活だというのに、正しい反米教育を受けたことを自覚できないことは、勝ち組の子孫を残せない真性の負け組の象徴であり、知識に対する恥さらしである。

またまた、場面は変わるが所属しているフライトクラブの04年の忘年会である開業医から「安全性に疑問があるものを栽培してはいけない

よ」とやんわり言われた。「96年当時の厚生省が医薬品と同じく、安全性の確認をしています」と伝えると「じゃ、なぜみんな騒ぐのだ?」と言ったので、私は「知らない技術だつたり、元々国家を信じていないからだと思います」と答えた。

今いる日本の生産者たちよ! 科学を信じない左翼のバカの言うことを無視してよい。今いる生産者の味方は組み換え作物を年千万tも食している消費者である。

と言うか、反対派の多くはバカではないようだ。多くは事の真相をよく知っていて、国家が安全と言ったものしかケチをつけないようだ。3・11前の原子力であったり、BSEであったり、インフルエンザワクチンだったりする。

そういうえばある新聞記者が「それほど安全だと主張するのだったら、宮井さんの土地に原子力発電所を作りたいと言ったらどうしますか?」と聞いてきた。

私はもちろんこう答えた。「賛成しますよ。個人の思想や思いで原発ができる訳ではなく、国家が必要としているのですからハンコ押して農地売りますよ。でも将来のリスクは自分で解決できないので長沼から出て行きますけどね。矛盾はないでしょ、朝日新聞さん?」